

学校教育環境改善事業でライスマが表彰

ライスマの活動は、人々を励まし自立を促すためのローンサービスだけではなく、国の未来を担う子供たちが勉強に集中できる教育環境を改善するのも大きな仕事です。この2年の間に豊橋ライオンズクラブと協力して、プノンペン市郊外の小中学校11校にトイレの建設を行って参りました。「日本人を見たらとりあえず学校校舎が欲しいと言え」という風潮がカンボジアの教育関係者の中にあり、とにかく日本人は校舎を建てるのが好きだと思われるところがあります。プノンペン市教育局でも当初は校舎が～と言ってましたが、「校舎はいくらでも建設するあてがあるでしょ、校舎以外に必要なものは何!？」、あげくに教育長さんを引きずり出して郊外の学校をいっしょにまわってもらい、現場の先生や子供たちにインタビューを繰り返す中から、トイレの絶対数がまったく不足していてこれが授業の妨げになっていることを突き止めました。



トイレがない、あっても壊れてこんな感じ

10数年前はまだトイレがない家も多かったので、学校にトイレがなくてもどうってことなかったですが、今プノンペン市の近郊もトイレのない家はほとんどなく、トイレで用を足



これしかなかったんで(↑)

これらを入れました(↓)

す習慣がしっかりできているのに学校トイレは忘れられてたわけです。ある女性の先生は、「トイレに行きたくないと困るので、朝起きてから授業が終わるまで水を一滴も飲めないんです」とも言っておられました。男の子はまあいいでしょう、優先すべきは思春期の女生徒と女性の先生！そこから豊橋ライオンズとライスマのトイレ建設の取り組みが始まりました。



「あれ、カンボジアの学校には男子の小用がなく大便器ばかりだぞ・・・」そこで逆転の発想＝男子小便器を沢山入れることで、大便器＝個室はすべて女子が使える・・・そこで男子小便器を大量設置。

身障者用ということで、階段ではなくスロープをつけた校舎やトイレも時々見かけますが・・・スロープが必要な身障者が果たしてしゃがみ込んで用を足せるのか・・・座れる西洋便座がなくては・・・そこで最低1校に1つはスロープ+西洋便座付きで広さも2倍の広さをもつトイレを導入しました。



(裏面に続く)



豊橋ライオンズクラブ寄贈を表すプレート

2012年、2013年、2年の間にこうした新しい基準のトイレがプノンペン近郊の小中学校11箇所にて建てられました。写真ではわかりにくいですが、女生徒や女性の先生たちのこの上なく嬉しそうな様子を見ること

ができて、豊橋ライオンズクラブの皆さんも口々に「あ～やってよかったあ」と言ってくださいました。



プノンペン市教育長さんからライスマへ感謝状

そして、これらの功績がプノンペン教育局及び、カンボジア教育・青少年・スポーツ省から認められ、豊橋ライオンズクラブには大臣からの感謝状とフン・セン首相からの国家再建貢献勲章が授与、ライスマへもカンボジア教育・青少年・スポーツ省とプノンペン市教育局からの感謝状が授与されました。

2013年事業は豊橋ライオンズクラブの



豊橋ライオンズと現地のライオンズで記念撮影

設立55周年記念事業にもあたり、プノンペン市内のレストランで3月には盛大なパーティーが行われました。プノンペン市教育長、トイレ寄贈を受けた全ての地区の教育長、校長先生たち、カンボジアのライオンズクラブの皆さん、そして日本大使館からも勝尾一等書記官にも参加いただき、カンボジアと日本の友好的な関係がさらに強くなった、そんなパーティーとなりました。

そして、日本においても、豊橋ライオンズ55周年記念大会でこの記念事業が大きく取り上げられ、豊橋ライオンズクラブからライスマへも感謝状が贈られました。この様子は愛知県の地元紙である、東愛知新聞にもおおきく取り上げられています。

ライスマでは今後もよいローンサービスの提供と共に、こうした教育環境改善にも積極的に取り組んで参ります。

2013年5月20日 磯部正広

